巻第五百十一

平氏　維將流

高力

寛永系圖にいはく、熊谷次郎直實は高望王の後胤なり。今の呈譜に、高望の孫、貞盛が弟、維將より四代を鎌人部大夫といふ。其長男下野介時方、これ高力の祖なり。其二男下野介維方、これ北條の祖なり。維方が孫熊谷次郎大夫直貞、武藏國小沢郷に住す。のち太郎をあらためて熊谷とよぶ。次郎直實はその二男なりといふ。今案するに、熊谷系圖、幷本小高ありといへども、熊谷系とおなじ。よりて寛永の舊記にしたがひといへども、今これをあらたむ。はじめ熊谷を稱し、新三郎重長がときはじめて高力を稱す。

●直實　次郎　母は秩父某が女。
武藏國熊谷郷を領し、源頼朝卿につかふ。治承四年安房國石橋山のとき、真に帰二心なかりたる戦の軍をたまひ、功をあらはす。六年五月梶原景時等として下文をたまひ、熊谷郷の地頭職となる。三年二月一谷の戦ひに先登して敦盛を討取。建久三年十一月二十五日、直實久下權守直光と所領の境界論の事により、頼朝の前に二人をめし論せらるの時、直實しばしば不審を蒙り、下問あるを憤り、西侍において自ら刀を取て髻をはらひ、出門をはしりいでて家にかへらずして逐電す。頼朝直實が遁世をきゝおよび、餞別をして返しむれどもをよばす。のち佛教原が弟子となり、京都東山に住す。承元二年九月十四日東山の庵において卒す。年六十六。法名蓮生。

●直家　小次郎　兵衛尉　母は安子某が女。
頼朝卿につかへ、しばしば戦功あり、て安藝國守護職となる。貞應元年十一月二十日死す。年四十五。法名觀蓮。

實景　三郎左衛門　左馬允　藏口
承久の亂に、宇治に屬して討死す。

直勝　三郎　兵部
承久の役に、勢田にをいて戦死す。

女子　北條武藏守時頼が妻。

女子　越田五郎某が妻。

直國　平内左衛門　母は土肥二郎實平が女。
承久三年六月十三日宇治勢多にをいてかたいに討る。法名妙直。

●直重　四郎　次次郎
熊谷郷に住し、兄直國とともに勢田にをいて討死す。

行直　五郎

直基　七郎　法名愛蓮

女子　武藏五郎某が妻。

女子　熊谷判官代某が妻。

●直忠　次郎左衛門　今の呈譜、新三に作る。

直親　彌四郎

女子

女子

●忠重　又次郎　今の呈譜、與次郎に作る。

俊直　備中守
新田義貞につかへ、十六騎のその一人たり。義貞とともに足羽にをいて討死す。

●直鐵　又次郎　備中守　母は阿保信濃入道某が女。
元弘三年、番持院六波羅退治のとき、勇猛の士十六騎をえらばる。

直國比類となりて供奉し、しばしば軍功あり。其のち三河國八名郡をたまはりてはじめて彼地に住す。某年死す。法名牛觀。

●直氏　又次郎　民部大輔　母は仁木伊賀守某が女。

女子　設樂五郎左衛門某が妻。

●重直　豊後次郎

●清直　五郎兵衛

●實家　新次郎
永享十一年結城合戦に討死す。法名蓮德。

●長直　新左衛門

●重實　又次郎　兵庫頭
三河國宇利庄に居住す。

●實長　兵庫入道　法名蓮貫　宇利熊谷と稱す。母は阿保安房守某が女。

直運　宇利正覺寺院の住職。

直安　兵庫頭

直次　又次郎　母は松平備次郎某が女。
今川氏真に屬し、遠江國に居住し、よ野の熊谷と稱す。

重海　法師　宇利の地藏院に住す。

●正直　新三　今の呈譜、直長に作り、正直をもつて法名とす。はじめて熊田を稱し、三河國高力郷に住す。

●長信　新三

直信　隼人助　八幡を稱す。

重長　與次郎　備中守　母は鵜田與次郎某が女。
高力郷に住するが故にはじめて家號とす。清康君につかへ、三河所々の戦ひにしばしば戦功あり。天文四年清康君逝去ののち織田信秀その隙に乘じ、八千の兵を率て岡崎城をせめむとす。十二月二十七日毛呂等相議して松平十郎三郎康孝を將とし、八百餘騎を三隊に分、急に進むで信秀が軍を破る。この時重長父子、伊田郷にをいて戦死す。法名道蓮。妻は小笠原新平某が女。

女子　鳥居源四郎某が妻。

●安長　新三　母は新平某が女。
父とおなじく伊田郷にをいて討死す。法名道節。妻は板倉氏の女。

重正　新九郎
天文六年五月廣忠卿岡崎に御歸城あるのとき、命を賞てこれをこばむものあり。重正速に馳參て軍功ありしかば、御感をかうぶる。のち東照宮に勤仕し、永祿三年五月十八日尾張國大高城にをいて討死す。

某　新九郎

女子　岩瀬助解由左衛門某が妻。

●清長　新三　與左衛門　河内守　母は板倉氏の女。
享祿三年三河國に生る。天文四年父討死のとき、清長六歲にして孤となり、叔父重正に養はる。其のち廣忠卿につかへ、二十一年駿府にいたり東照宮につかへたてまつる。永祿三年五月十八日、尾張國大高の合戦に鵜殿の高名して甲首一級を得たり。六年一向專修の亂に、御譜代の士おほく一揆に屬すといへども清長同心せず、岡崎城に勤仕し、しばしば軍功あり。又土呂の本宗寺は清長が本領高力の郷と隣るにより、仰をうけて廳むかひ、これを平治す。